2001年度 専修大学経済学部 望月宏ゼミナール

ゼミ活動報告

報告者：飯野 勝也（前期）

高橋 浩平（後

期）

【「春合宿」 3月30・31・1日 御宿セミナーハウス】

2年生ハーバード論文答辞暗唱

3年生、進級論文プレゼンテーション

映画鑑賞「海の上のピアニスト」

国ゼミ年間活動報告

（比較経済論要約プレゼンテーション + ハリソンさんサマリー発表）

ディスカッション(テーマ2つ)

Re-boot プレゼンテーション（経済ゼミ3年生）

ディベート

レクリエーション（第1回望月宏CUP争奪タスポニー大会）

懇親会

ディスカッション（1） 司会：高村

テーマ「日本経済の根本的問題点について」

参考書 『ゼロからの出発 - Re-boot!-』（大前研一 PHP研究所）

1班＜飯野・小西・稲嶺・高橋・伊藤和・原＞

- ・ 資金が有効に動かない
- ・ 資金最多保有者（60代～70代）が消費、投資をしていない
- ・ 株価下落による金融、企業活動の低下
- ・ 政府の既得権固執。

< 解決策 >

1班＜飯野・小西・稲嶺・高橋・伊藤和・原＞

- ・ 資金が有効に動かない
- ・ 資金最多保有者（60代～70代）が消費、投資をしていない
- ・ 株価下落による金融、企業活動の低下

- ・ 政府の既得権固執短期：株式投資奨励税

< 解決策 >

短期：株式投資奨励税

中期：租税の比率をかえる

長期：人材育成のプログラム

2班< 田村・鈴木・長谷川・井口・渋谷・伊藤瑠 >

- ・ 人材育成のための教育
- ・ 不良債権、銀行の貸し渋りと低金利政策
- ・ 日本人の政治不信
- ・ 投票率の低さと内閣の低支持率
- ・ 無駄を除いた公共投資と意味のある見返りのある公共投資

< 解決策 >

短期：企業戦士のスキル育成、インフラに伴う雇用

中期：学生のスキル教育

長期：インフラ整備（光ファイバー）税、初等教育の充実化、法の整備

3班< 高村・石井・小西・宮沢・岡田 >

- ・ 日本に優秀な人材が集まらない
- ・ 政治意識の低下
- ・ 無駄な公共投資
- ・ 企業経営の閉鎖感

< 解決策 >

エンジェル組合 企業 設備投資 生産UP 競争力UP 収益UP 労働賃金UP

消費の上昇

4班< 永松・三宮・辻・秋山・朴・渋谷 >

- ・ 国債の依存度を下げる
- ・ 公共投資の見直し
- ・ 社会福祉、年金の問題
- ・ 企業の生産性の低さ
- ・ 政策を行う人材の育成
- ・ 規制の緩和、税制の見直し
- ・ 不良債権の処理問題
- ・ 人材育成のための教育

< 解決策 >

長期：投資の教育（株等の抵抗感をなくす）、IT教育（情報化教育）、外国企業の参入、
規制の緩和

新学期を始める前に、今一度日本経済の本質的問題点をあらいだす目的で本書を使用し、事前主張では、日本経済が回復しない本質的問題点を全員がBBSに記載したが、「政府が悪い・政治が悪い」といったやや抽象的主張が多かった。これは、本書の主張であり、望月ゼミ生はそれをやや強くまにうけている事を端的に現している事ととらえられる。司会者の、最後のまとめにもあったように、本を批判的に読む事の大切さと、本を読みこむためには、しっかりとした理論に基づく知識の蓄積が無いと本質的に内容を理解する事はできない事を、ゼミ生が学ぶ契機になった。

ディスカッション(2) 司会：小西

「集団組織における人間関係において大切な事は何か」

A班「話し合うこと」：相手を受け入れ、相手の意見を大切にし、その中で自己主張を忘れない。協調性も大切に。

B班「個人がその集団で何ができるか把握すること」：相手と自分を理解する

C班「会話」：信頼、相手を気にかける。

D班「相手を知り、自分を知ってもらうこと。

E班「理解するための努力、心がけ」：きっかけを通じて他者を、お互いを理解する。

<統一見解>

- ・ 話し合って理解すること
- ・ 個人が何をすべきか、自分の役割を把握していること
- ・ 自分を振りかえること

<教授より>

人間関係：「関係を作っていく」「関係を太くしていく」

そのきっかけや手段として「会話」がある

個人を見つめながら、全体を見つめなおしていく

集団の活動において必要とされる事を、全体で突き詰めて考える機会を持てた事がよかった。これは、新年度の活動を行って行くにあたり大切な概念である。また、教授が留学して不在になる後期以降を考えると、意味の深いディスカッションテーマであった。

- ・ 集団というものを視野に入れながらも、個々人が積極的に活動していく事が集団全体が向上していく上で必要だということ。
- ・ 情報伝達コストが高かろうが、効率性が低かろうが、コミュニケーションの太いネットワークを構築していく水平型機構の必要性。
- ・ 集団活動での、皆共通のルール、責任を果たす事の必要性
- ・ このような事をゼミ生全員が全体のディスカッションの場で確認し合えた事が大きかった。

<ディベート> 司会：正根寺・永松

A班（電子メール） VS B班（手紙）

A班（男性） VS C班（女性）

B班（ドラマ） VS C班（映画）

テーマは、知識に関係なく主張を作れ、活発な議論になるようなもの考えた。また、今後の新人戦やインナー大会を踏まえディベート形式になれる必要があった点や、2年生が全体の場で、意見を言う事になってもらう経験をしてもらう意味で、初めてディベートを取り入れた。ここでは、自分達の主張の正当性と相手の主張の矛盾点を見出す訓練が出来たとともに、自分の主張を相手に伝える難しさを学ぶ機会になった。

【2001年度 前期ゼミ活動】

「デフレーションが経済に与える影響について」

形式

(1) プロジェクトチームの活用

- ・ 原論班
- ・ マクロ DATA 班
- ・ ミクロ DATA 班

(2) 財市場・金融市場・労働市場に分け、段階的に考察

(3) 各班事に、PPTによるプレゼンテーションを行った。

<統一見解>

Deflation の定義 「持続的な物価低下現象」

想定する経済モデル「初期ケインジアンの流動性の罅」

根拠 日銀のゼロ金利政策により、金融政策が有効性を持たない事から。

「投資の利子弾力性ゼロ」

根拠 資産デフレによる、企業のバランスシート悪化によって投資需要が極度に落ち込んでいるため、利子率を下げても投資が伸びず IS 曲線が垂直になっている（原論班作成 Data 参照）。

- ・ 「デフレ不況は、97年以降始まった。」

根拠 アジア通貨危機を受け金融不安、経済成長率の低下、消費者物価指数の低下、各業界の収益額の低下より。

- ・ 見受けられた経済状況

正規社員の減少・非正規社員の増大

雇用のミスマッチの発生（H12年度版経済白書：UV 曲線より）

各業界で、価値組み負け組みが顕著に見られる。

以上を踏まえ、デフレ下の日本経済において必要な事は、セーフティーネットの張替えをおこなう事である。

【6月30日 新人戦】

財政班：伊藤・高橋・井口・渋谷・岡田

テーマ	「財政と社会保障（公的年金）～安定成長を目指して～」
討論相手	吉家ゼミ
感想	当日は前半に「財政」、後半に「社会保障」についてディスカッションをしました。

日本経営班：朴・長谷川・秋山・原・伊藤瑠

テーマ	「日本経済再生に向けて～日本的経営と雇用対策～」
討論相手	徳田ゼミ・泉ゼミ
感想	当日は、それぞれのゼミが日本的経営である年功序列や終身雇用についての賛否や今後の日本的経営のあり方について意見を述べました

【学年合宿 天城高原】

各学年とも、天城高原にある教授の別荘へ行きました。

恒例になったタスポニ - や映画鑑賞、カラオケなど、普段のゼミ活動とは一味違った、体験をしました。

この合宿を通じて、同じ学年の仲間たちとの絆が一層深まり、普段は見られない新たな一面が見られたと思います。

このような場を設けてくださった教授に感謝しています。

【「夏合宿」 7月20・21・22日 伊勢原セミナーハウス】

4年生卒業論文中間発表

2年生進級論文発表

ディスカッション

国際ゼミ活動報告「スウェーデンについて」

期ゼミ活動の反省と後期の活動形式作りの話し合い

懇親会

ディスカッション 司会：川嶋

テーマ：日本の環境にあった、セーフティーネットをどのようにはればよいか？

このディスカッションにおいて2つの課題が見つかった。

(1) ディスカッションの行い方

- ・ キーワードに対するゼミとしての共通理解が無かった
今回で言えばセーフティーネット、これにより、班事によって、視点の不一致と見解のばらつきが生まれた。
- ・ 基本のコンセプトに対する理解(性質や特徴・現状)が足りなかった為、机上の空論での話し合いになってしまった。個人個人の事前準備の努力と、全体として統一見解を始めに定義しておくべきだった。

(2) 司会者の仕事が明確になった

- ・ 司会者は、進行役にあらず、あらかじめゼミ生が提示するであろう見解に対し事前準備を用意しておく必要がある。(全体を効率良くまとめ、運営していく為に)
- ・ 前期活動の反省と後期活動のフォーマット
プロジェクト事の見解のすり合わせがもっと必要。
絶対的に本を読む量とディスカッションをする量が少なかった。
前期の反省を踏まえ、後期活動では輪読を一部取り入れる。
やるべき事を期限通りにきちんと行う。
後期は、BBS や電子会議室を用いゼミ活動が教授に見えるようにする。
電子会議室に毎月の卒論・進級論文の進行状況を載せる。

月曜日：サブゼミ

火曜日：事前・事後感想のアップ

木曜日：本ゼミ活動

土曜日：各班の代表者と司会者は班の意見をまとめ書記に送る

日曜日：書記がゼミ活動記録としてまとめる(教授にも直接メールで送る)

PC班はHP上にアップする

【2001年度 後期ゼミ活動】

第15回～17回ゼミ活動

前期ゼミ活動において考察してきた現在の日本のデフレ経済を受け、新たに現在の日本経済の問題点と、セーフティーネットの必要性について考察した。

「セーフティーネットの政治経済学」(金子勝著 ちくま新書)の輪読

司会：吉岡 川嶋

<セーフティーネットの定義 統一見解>

「市場になじみにくい本源的要素を市場化したことによって生じた、不安やリスクを社会全体でシェアし、市場を安定させるための制度」

【新ゼミ生選考】

10月11日 公開ゼミ(95H)

1. 15:50~15:20(司会:長谷川 原)

2. 15:30~16:00(司会:秋山 井口)

3. 16:20~16:40(司会:朴 伊藤瑠)

4. 16:50~17:10(司会:伊藤和 岡田)

ビデオレターによる教授の挨拶

PPTを使ったゼミ活動内容のプレゼンテーション

両ゼミ長からの挨拶

アンケートの記入

ゼミ活動CD-Rの配布

17:20~第18回ゼミ活動(選考について)

10月18日 エントリー試験(12:15~725 教室)&一次面接

10月19、20、22日 面接(20日は予備日)

10月22日 一次合格発表

10月23日 二次ディスカッション&選考

10月24日 教授と最終選考&二次合格発表

今年も新たに8名の仲間が加わるようになった。

公開ゼミでは、PPTを使った活動報告のプレゼンやゼミ活動の風景を収めたCD-Rの編集など望月ゼミらしい新たな試みを行った。

是非、来年以降にも継承してもらいたい。

第19回ゼミ活動

当初は前期ゼミ同様にプロジェクト班を構成して、活動する予定でしたが、以下の理由により、後期ゼミは輪読を中心に進めていくことになりました。

我々が今出来る限界を知ったため

輪読をやることによる知識の補充

司会をやることによってゼミの運営方法を学習する

五つのたたき本の活用

ディスカッションをするため

ゼミ活動の運営を任された2年生には大きな試練になったが、ゼミの運営手法を学ぶ大きな意味合いをもったゼミであった。

第20～22回ゼミ活動

「企業年金の未来 - 401k と日本経済の変革」(中北徹 ちくま新書)の輪読

司会 原 伊藤瑠 朴

1. 「既存のシステム(確定給付型)にはどんな問題点があり、なぜ確定拠出型が必要なのか?(導入過程)」

<統一見解>

- ・ 少子高齢化に伴う人口構成の変化により企業側が年金積立に困難になったため
- ・ 過剰な運用利回りによる給付の限界
- ・ 確定拠出型は年金積立型なので労働市場の流動化がしにくい状況にある

2. 「確定拠出型のメリット・デメリットとは何か?」

<統一見解>

メリット

- ・ 少子高齢化の時代に向いている
- ・ 雇用の流動化が生まれることによりより有能な人材を確保できる
- ・ 企業が年金運用のリスクから開放される・自己責任が生まれる
- ・ ポータビリティがあるため、転職しやすい

デメリット

- ・ 新入社員の流出
- ・ リスクが大きい
- ・ 年金自己運営のための教育
- ・ やり方の説明の義務
- ・ 将来設計がたてにくい

確定給付型年金・確定拠出型年金ともにメリット・デメリットがあり現段階においてどちらかを選択するということは非常に困難である。

3. 「アメリカ版 401K が普及しない原因を考慮し、日本版 401K を導入する際に発生する問題点とは何か?」

<統一見解>

- ・ 労働市場の流動化が予想され特に衰退産業からは多くの人材が流出
- ・ 自己責任運営 株・証券などの知識が必要 事前教育が必要

背景

企業側の年金運用が出来なくなった

企業制度が同じままで年金制度だけを改革しても意味がない

4. 「確定拠出年金型の導入により、今後必要とされる金融商品また、金融市場に発生される問題とは？」

<統一見解>

金融商品：投資信託

商品の条件として：長期的に運用できるもの・低リスクのもの・内容が明確なもの等

問題点：金融商品における情報の非対称性、企業と運用機関との癒着、規制が不十分のため不透明な取引になる、確定拠出型が浸透するにあたり間接金融から直接金融へと移行するのだがそれに伴う資金調達の出来ない企業の淘汰など

このテーマより金融部門においてもまだまだ導入体制が整っていないことを認識

5. 「確定拠出年金は現時点で導入すべきか？」

<統一見解>

「導入すべき」 拠出型のメリットを生かすために導入

- ・ 給付型と拠出型の併用 徐々に移行させその期間にインフラの整備をおこなう
- ・ 企業の財務負担の軽減
- ・ 労働市場の流動化

「導入すべきではない」 この意見はあくまで現段階であり将来的には導入という方向性

- ・ 制度の構築が不十分
- ・ 現段階で取り入れてもなんら個人にはメリットがない
- ・ 段階を追って導入すべき
- ・ 現段階で導入せずとも将来的には必然的に導入することになる
- ・ このテーマより現段階ではまだ拠出型に対する評価はしがたいということを認識

<企業年金の未来まとめ>

「企業年金の未来」を通し、拠出型に対するメリット・デメリット・問題点・今後の課題等が見出せたと思うが現状では導入すべきか否か一概には言えない。実際に導入を始めている企業もいるがまだ間もないためその成果はわからない。今後どのように拠出型年金システムが活用され、普及してくのかもしれないもしくは給付型年金システムが根強く残るのかは日本の国民性や今後の景気の動きにもよるであろう。来週はこの二週間で得た知識に実際のデータ（拠出型年金を導入している企業の財務状況、また導入に至った経緯など）を用いて更に考察を進める。

1. 「実際、企業が確定給付型を導入するにあたり、メリットと感じている点。（企業・従業員側両方の面から考える）また、導入した企業はどのように問題をクリアしたのか？」

<統一見解>

メリット

- ・ ポータビリティの確保
- ・ 積み立て不足等、財務面での企業側の負担軽減
- ・ 少子高齢化に適した制度

問題点

- ・ 運用管理機関にかかるコスト
- ・ 将来不安
- ・ 労組
- ・ 従業員の同意 解決方法として

運営機関による教育等によって将来不安を解消するハイブリット型にする事で従業員のリスクを軽減した

2. 「雇用の流動化が図られることによって、労働市場に発生する問題点とは何か？」

<統一見解>

- ・ 失業給付の拡充
- ・ 人材育成が困難になる
- ・ 非正規社員が増える
- ・ 失業率が上昇する事で発生する賃下げ・貯蓄率の上昇等の問題

【11月24・25日 インナー大会（日本大学経済学部校舎）】

日本経済班

班員	田村、鈴木、辻、稲嶺、長谷川、伊藤（和）、原
テーマ	「日本経済の現状と打開策」について
討論相手	立教大、中央大、亜大
感想	金融・財政を中心に議論を進め、それぞれが頑張ってくれたので、とても充実したディスカッションができたのではないかと思う。

情報通信班

班員	高村、永松、三宮、正根寺、朴、秋山、岡田
テーマ	「日本経済再生のための情報化」について
討論相手	中央大学
感想	終始、論文に沿った筋道のある落ち着いた議論ができ、良かった。

金融班

班員	吉岡、飯野、小西、川嶋、高橋、井口
テーマ	「金融システムの安定化～景気回復に向けて～」について
討論相手	日大、文京女子大

感想	全く違った学部だったので、刺激になりおもしろかった。理論が難し過ぎて、議論が止まってしまうことがあったが、文京女子大の教授のお話のためになり良かった。
----	---

第23～25回ゼミ活動

「雇用改革の時代 働き方はどうかわるか」(八代 尚宏著 中公新書) 輪読

1. 「どのような経済環境の変化あり、なぜ終身雇用制度が成立しなくなったのか？」

<統一見解>

終身雇用制度

- ・ 高成長
- ・ ピラミッド型人口構造
- ・ 国内規制

終身雇用制度崩壊

- ・ 低成長
- ・ 少子高齢化
- ・ グローバル化(国際競争)
- ・ 金融等の自由化

このような経済環境の変化に伴う弊害、問題に終身雇用制度では、限界があり維持できなくなっていく。

2. 「新しい経済環境に対応する雇用制度とは、どのようなものか？(政策も含めて)」

<統一見解>

- ・ パートなどの非正規雇用者の拡大として、派遣業者、職業紹介事業の充実
- ・ 人口構造的視点から見て、女性や高齢者に適した(働きやすい)環境づくり
- ・ 年金、退職金といった将来への徹底した対処

3. 「職業紹介機能の問題点・あるべき姿とは？」

<統一見解>

- ・ 料金規制により、失業者が質の高いサービスを受ける機会を奪われている
- ・ 広域紹介規制により、失業者の雇用機会を狭めている
- ・ 派遣事業との兼業を禁止されている事により、派遣での職業訓練機能というメリットが奪われている。しかし、現実的には派遣元と先の利害関係があるため成り立たない可能性もある

4. 「失業給付金制度の問題点とあるべき姿」

<統一見解>

- ・ 給付期間の長さが充分でない
- ・ 失業給付の受給資格者の幅を広げるべき
- ・ モラルハザード(フリーライダー等)を防ぐために受給期間に応じて段階的に受給額を下げる

- ・ 非正規雇用者と正規雇用者の受給資格格差を解消の方向へ

<後期ゼミのPPTまとめ>

PPTの流れ

1. 小泉改革について
2. 『セーフティネットの政治経済学』まとめ
3. 『雇用改革の時代 働き方はどう変わるか』まとめ
4. 『企業年金の未来 日本版401K』まとめ

後期ゼミに使用した3冊の本について、PPTでまとめた

【12月6日 インゼミ】

今年度から、慶應義塾大学山田ゼミと討論会を行うことになりました。

今年度は、準備段階として、

山田ゼミ：三田祭論文

望月ゼミ：インナー論文 を交換し、お互いに質問の交換をしました。

詳細につきましては、インゼミ活動報告を参照ください。

第26・27回ゼミ活動

国際比較ゼミプレゼンテーション

<全体の流れ>

- 1、オランダの不況と回復の流れ（オランダ病を経て）
- 2、オランダのワークシェアリングと日本の現状比較

日本に対する政策提言

日本に今必要とされている雇用維持を行いつつも将来的に雇用創出に持っていけるようにするにはどうすればよいのだろうか・・・

卒業論文の発表

両角	雇用流動化について
江藤	総合商社
株屋根	中国経済
河合	B to B はデフレを呼ぶのか？
富田	IT

堀	中国と日本企業
木 幡	途上国の発展の阻害要因
津ヶ原	比較優位と地域経済
山 村	生き残る飲食業の未来
吉 沢	環境汚染と社会選択

4年生に、4年間の集大成である卒業論文を発表していただきました。

また、最後のゼミ活動ということもあり、一人一人重みのある言葉をいただきました。

先輩方から受け継いだものを、継承し、望月ゼミらしいゼミ活動が行えるよう、

これからも頑張りたいと思います。

4年間お疲れ様でした。